

アウトリーチ活動

分子科学研究所 一般公開2015

岡崎3研究所では3年サイクルの輪番制で一般公開を実施しています。2015年は分子研の第14回目の公開年にあたり、10月17日（土）に「分子科学研究所 大公開2015」と銘打っての開催となりました。「学びと発見！ちいさな分子が未来をつくる」をテーマに、普段見ることが出来ない施設や実験室を公開し、展示パネルや体験イベントを通じて科学の楽しさや奥深さをアピールしました。最近の総来場者数は、昔のように2,000名を越えるようなことはなく、今回は日頃のアウトリーチ活動の積み重ねを生かすことなどで2,800名強にまで増加し、「大」公開の名に恥じない「大」盛況なイベントとなりました。

今回は、見学者の利便性や安全性などを考慮して、会場を「計算機センター」「実験棟」「南実験棟3階」「UVSOR」「岡崎コンファレンスセンター」の5ヶ所に限定しました。体験型の展示は実験棟4階および南実験棟3階に集中配置し、入場者の動線を考慮しつつ、随所に見学用の展示を散在させました（スパコン、UVSOR、NMR等）。「おかざえもん」が応援に駆けつけた展示会場は活気に満ち溢れ、その様子は複数のメディア（東海愛知新聞、ミクスネットワーク株式会社、株式会社CBCテレビ）で取り上げられました。

岡崎コンファレンスセンターでの市民公開講座（分子科学フォーラム特別版）では、所内より繁政英治先生を、また宇宙航空研究開発機構（JAXA）より國中均先生を講師としてお招きしました。ホームページ等をご覧の方はご存知かと思いますが、分子研とJAXAは連携し、「はやぶさ2号」が持ち帰った試料をUVSORで分析する方法を検討することになっています。はじめに繁政先生が放射光の性質を一般向けに噛み砕いて解説され、続いて國中先生が分子研との連携に触れつつ「はやぶさ1号」「はやぶさ2号」が拓く宇宙探査について講演されました。

「大」盛況だった今回の一般公開ですが、幾つか気になる点もありました。回転率の都合から人の流れがスムーズでない展示が一部見受けられました。また、タッチラリー・システムを導入して見学者の数や現在位置をリアルタイム追跡しましたが、一時的に一部の機能が制限されてしまう事態が生じました。前者については展示内容や動線上の配置を最適化し、後者については端末を統一してシステムを補強するよう、次回に申し送りしたいと思います。

広報活動で大事なことは「効率」なのかな……、と感じています。来場者数を気にする理由は人それぞれですが、同じ努力をするならできるだけ多くの人に来てもらって分子科学研究所を身近に感じてもらいたい——というのが広報担当の目線です。しかし、リソースは限られていますので周知活動は効率的に行わなくてはなりません。一般公開日当日の「未来の科学者賞の授賞式」だけでなく一週間前（10月11日）の「理科作品展」、そして定期的に提供している出前授業……、分子研の広報室は、これらのイベントを介して岡崎市教育委員会や地元の理科教師が作るネットワークに貢献しており、今回はこのネットワークを活用して一般公開を宣伝しました。その甲斐あって、また所内ならびに事務センターの皆さまの事前準備や運営への多大なご協力あって、「大」盛況となりました。ここに厚く御礼申し上げます。

（秋山 修志 記）

